

カンボジアで 真心手渡し

フリーマーケットの開催を通して市民交流を進めている松本市のフリマネット信州(立石恵子代表)と松本地方のフォークソング愛好家がつくる「松本フォーク村」のメンバーが今夏、カンボジアを訪れて、現地の子供に文房具を贈ったり、演奏を披露したりする復興支援ツアーを実施する。内戦の傷跡が残る現地で直接子供たちを応援しようと企画し、文房具の提供など協力を呼び掛けている。(湖上健太)

開発途上国で就学支援活動をしている静岡県の市民団体・就学支援の会と共同で実施し、日本のNGO(非政府組織)が、カンボジア西北部のシエムリアップ州で運営する内戦孤児の支援センターなどを訪問する。電子ピアノやギターを持ち込んで日本の歌謡曲などを演奏するほか、手作りの料理を振る舞う交流会を予定している。地元の小中学校も訪れ、日本から持ち込んだリコーダーや鍵盤ハーモニカといった楽器や、鉛筆やノートなど現地で不足している文房具を贈る。簡

松本の有志 支援物資募る

秀子さん「松本市寿台2丁目8人が現地を訪れる。2人は「物質面の支援も大切だが、訪問や演奏を通して応援する仲間がいることを伝えたい」と話す。

ツアーを前に、中古のリコーダーや鍵盤ハーモニカ、文房具などの支援物資や輸送費などに充てる寄付金を募っている。フリマネット信州が松本市などで開くフリーマーケットの会場にも支援物資の回収箱を置く。問い合わせは立石さん(☎090・9664・5510)へ。



リコーダーやノートなど市民から寄せられた支援物資を手にする立石さん(中)と中塚さん(左)ら